

ANNIVERSARY

公益社団法人 吹田青年会議所

創立50周年記念誌

TRAINING

地上最大の宝は個々の人格にあり

修練

SERVICE

社会への奉仕は人生最大の仕事である

奉仕

FRIENDSHIP

友情は国家主権に優先する

友情

	JCの三信条	1
	目次	2
	JCI Creed・JCI Misson・JCI Vision・JC宣言・綱領	3
	JC ソング・若い我等	4
ご挨拶 ご祝辞	公益社団法人 吹田青年会議所 第50代 理事長	5
	大阪府知事	6
	吹田市長	6
	吹田商工会議所 会頭	7
	公益社団法人 日本青年会議所 2019年度 会頭	7
	公益社団法人 日本青年会議所 近畿地区協議会 2019年度 会長	8
	公益社団法人 日本青年会議所 近畿地区 大阪ブロック協議会 2019年度 会長	8
	一般社団法人 箕面青年会議所 第54代 理事長	9
	香港浩洋青年商會(JCI Ocean) 会長	9
	吹田JCシニアクラブ 会長	10
歴 史	入会認承証	11
	創立宣言文・集合写真	12
	創成期メンバー対談	13
	50年の歩み	15
	テーマ別の活動紹介	35
	55周年に向けた中長期ビジョン	37
対 談	「震災を経験して」	39
	「吹田まつりと吹田JC」	40
	「姉妹青年会議所の締結」	41
	「第一回公開討論会」	42
	「キッズタウン」	43
	「公益法人格の取得」	44
メンバー	卒業生リスト	45
	メンバー紹介	47
	担当委員長挨拶・全体写真	49
	編集後記・記念誌メンバー	50

The Creed of Junior Chamber International

We Believe :

That faith in God gives meaning
and purpose to human life ;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations ;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise ;
That government should be of laws
rather than of men ;
That earth's great treasure lies in
human personality ; and
That service to humanity is the best
work of life.

JCI Mission

To provide development opportunities
that empower young people
to create positive change.

JCI Vision

To be the leading global network of
young active citizens.

JC 宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

JCI 綱領

(訳)

我々はかく信じる：

「信仰は人生に意義と目的を与え
人類の同胞愛は国家の主権を超越し
正しい経済の発展は
自由経済社会を通じて最もよく達成され
政治は人によって左右されず
法によって運営されるべきものであり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最善の仕事である」

JCI ミッション

(訳)

青年が、積極的な変革を創造し、開拓するために
能動的な活動ができる機会を提供する。

JCI ビジョン

(訳)

若き能動的市民の
トップ・グローバル・ネットワークになること

綱領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い 力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

JC ソング

作詞：松田 基 / 作曲：奥山 勝太郎

1. JC JC JC

せ かい むす ちから
世界を結ぶ 若き団結
あたら しょ のぞみ
新しき世紀の 希望となりて
とわ さか
永遠に繁栄えん
われら つど
我等の集い

2. JC JC JC

ほうし りそう もと
奉仕の理想 探究めつつ
くに あゆみ ちから
祖国の進歩の 力となりて
さきが われら つど
先駆けゆかん 我等の集い

若い我等

作詞・作曲：入江 義朗

- 若い我等が 手を取り合って
進む行く手の 青い空に
輝く JC 明るい希望
足なみをそろえて 行こうじゃないか
- 世界を結ぶ 若さの力
互に尽くす 楽しさこそ
JC の理想だ 新しい日だ
足なみをそろえて 行こうじゃないか
- 若い我等の 心を集め
つくる集いに 未来をかけて
JC の仲間は 皆信じあう
足なみをそろえて 行こうじゃないか

理事長ご挨拶



岡田 真里

公益社団法人 吹田青年会議所 第50代 理事長

1970年8月22日、篤き志と情熱を込めた創立宣言のもと、箕面青年会議所の温かい友情と熱意溢れるスポンサーシップにより全国で436番目の青年会議所として認証され、ここに創立50周年を迎えるに至りました。

長きにわたり、我々の活動にご支援、ご協力、ご理解を賜りました行政や企業、各種団体、地域の皆様、各地青年会議所の同志達に心より感謝申し上げます。そして郷土を愛し、人を想い、まちづくり運動に邁進してこられた多くの先輩諸兄の皆様に敬意を表するとともに、篤く御礼申し上げます。

皆様方とともに、この50周年を迎えるに至りましたこと、メンバー一同喜びに満ち溢れております。

創立以来、我々は「明るい豊かな社会の実現」のために、様々な方法で青少年育成や国際交流、地域連携に取り組んで参りました。創立45周年時に策定しました「想いを現実(かたち)に 社会にニーズを感じ、シナジー効果を生む運動」に取り組み、わがまちに新たな価値を創造する。」という中長期ビジョンのもと、まちの宝である市民(人材)、組織(行政・企業・各種団体・大学)、地域力(文化・歴史・経済・政治)を活かし、この吹田に新たな価値を創造すべく運動を行って参りました。そして、本年におきましては、「for the better ~あと一つ、あと一歩~」をスローガンに掲げ、一人ひとりがよ

り良い未来のためにあと一つ、あと一歩、自分に何ができるのかを追求し、まちづくりに関わる市民が一人でも多く増えることを目指して運動を行っております。

AI、IoT等、情報技術の発展は、私たちの生活の形を大きく変えてきました。今後もそれはますます加速していくでしょう。当会の創立から50年を振り返れば、技術革新のスピードは異なれど、経済や産業、生活において、その「様式」は大きく変わりました。しかし、「様式」が異なるだけで、それぞれの本質は変わることはありません。加速度的に変化する社会において、「様式」の変化に振り回されず、誤った選択をしないよう「ヒト・モノ・コト」が持つ本来の意味・意義・性質をしっかりと見極めることがこれまで以上に求められる社会になると考えます。

「本質をみつめ、未来を創造する」新たな中長期ビジョンのもと、私たちは、明るい豊かな社会を実現するために、過去を振り返り、今を見つめ、「ヒト・モノ・コト」の本質を見極め、未来を先見し、「修練・奉仕・友情」の三信条を胸に仲間と共に進み続けて参ります。

今後とも当会の活動・運動に対しご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。50周年記念式典のご挨拶とさせていただきます。



吉村 洋文

大阪府知事

公益社団法人吹田青年会議所が創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。また皆様には、日頃から大阪府政の推進に格別のご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

吹田青年会議所の皆様におかれましては、「for the better～あと一つ、あと一歩～」をスローガンに掲げ、わんぱく相撲をはじめとした地域に根差した多様なイベントを開催し、より良いまちづくりのために日々尽力しておられます。

長年にわたる皆様のご尽力に深く敬意を表し、感謝申し上げます。

大阪府におきましては、開催が目前に迫った「G20大阪サミット」から2025年の「大阪・関西万博」へと、途切れることのない成長・発展の流れをつくり、大阪を東西二極の一極として日本をけん引する世界都市をめざしてまいります。

サミット開催にあたりましては、皆様とともに来阪される方々を最高のおもてなしでお迎えしたいと考えておりますので、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、吹田青年会議所のますますのご発展と、皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。



後藤 圭二

吹田市長

公益社団法人吹田青年会議所が創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴青年会議所におかれましては、昭和45年(1970年)日本万国博覧会の年に設立以来、情熱をもった若い力と強いリーダーシップを存分に発揮され、吹田市の発展に大きな役割を果たしてこられました。これもひとえに、会員やOBの皆様の結束力と並々ならぬご努力の賜であり、心から敬意を表します。

さて、本市では、平成30年(2018年)には北大阪健康医療都市(健都)がオープンし、令和2年(2020年)には中核市移行を目指しております。本市のさらなる飛躍が期待される今、皆様と連携を深めながら、吹田のまちの魅力や強みをさらに高めてまいりたいと考えておりますので、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、公益社団法人吹田青年会議所の今後ますますの発展と会員・OBの皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



柴田 仁

吹田商工会議所 会頭

公益社団法人 吹田青年会議所におかれましては、記念すべき創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

吹田青年会議所は、昭和45年、吹田市で開催されました日本万国博覧会の年に結成以来、歴代理事長のもと、青年の英知と勇気と情熱をもって、半世紀にわたり地域づくりの担い手として、数々の成果を積み重ねてこられました。ここに、改めまして心から敬意を表するものです。

そして、この間有為な人材を多く輩出され、私ども吹田商工会議所で活躍されている方々の中には、大勢のシニアメンバーがおられます。発足以来、関わりの深い私どもにとりましては、誠に感無量の思いを強くするとともに、今後ともより一層連携を密にさせていただき、吹田の発展に共に取り組めればと思っています。

結びとなりますが、吹田青年会議所の益々のご発展と、会員皆様のご健勝ご多幸を心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



鎌田 長明

公益社団法人 日本青年会議所 2019年度 会頭

この度、公益社団法人吹田青年会議所が創立50周年を迎えられますことを心からお慶び申し上げます。平素より公益社団法人日本青年会議所の運動に多大なるご理解、ご協力をいただいておりますことに深く感謝致します。

本年度、公益社団法人吹田青年会議所が理事長 岡田真里君のもと、「for the better ~あと一つ、あと一歩~」のスローガンを合言葉に、明るい豊かな社会を実現するため、また地域の様々な課題を解決するために、責任世代のリーダーとして挑戦され、持続的なインパクトを地域社会に与える運動が展開されますことを、改めてご期待申し上げます。

本年、公益社団法人日本青年会議所では、『誰もが挑戦できる 幸せな国 日本の創造』を基本理念として掲げ、『共に心躍る未来へ「やりましょう!」』のスローガンのもと、SDGsを日本で一番に推進する団体となるべく、各地会員会議所の皆様と手を携え、誰一人取り残さない社会を実現する運動を展開して参ります。今後とも、変わらぬ本会へのご理解、ご協力をいただけますと幸いです。

結びに、貴青年会議所のさらなる発展と活動地域においてすばらしい成果を出されることを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

危機感を持つ

心地の良い場所から共に飛び出そう

そして、変化を起こそう



松田 晋

公益社団法人 日本青年会議所 近畿地区協議会 2019年度 会長

公益社団法人吹田青年会議所の皆様が創立50周年という大きな節目を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。

また、本年岡田眞里理事長が掲げられました「for the better ～あと一つ、あと一歩～」のスローガンのもと、新たな一歩を力強く踏み出されたことに対し、近畿地区協議会といたしましても大変心強く感じております。

先人たちによって築かれたまちには「今」幸せがあると思います。皆様には次代にその幸せを引き継いでいただき、まちの持続可能な発展について熟慮断行し、地域になくはない存在として益々活躍されますことをご祈念申し上げます。

結びに、創立以来半世紀にわたり、明るい豊かな社会の実現に向け運動を展開されてこられた貴青年会議所の益々のご発展と、50年の歴史に関わられましたすべての皆様へのご多幸をご祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。



小田 博

公益社団法人 日本青年会議所 近畿地区 大阪ブロック協議会 2019年度 会長

平素は公益社団法人日本青年会議所近畿地区大阪ブロック協議会に多大なるご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。公益社団法人吹田青年会議所が創立五十周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げるとともに、これまでの歴史を築き上げてこられました先輩諸兄の皆様にも心より敬意を表します。

貴青年会議所におかれましては岡田眞里理事長の志高いリーダーシップと共に「for the better ～あと一つ、あと一歩～」のスローガンを掲げられ、力強い運動を展開されていることに大阪ブロック協議会として誇りに思うと共に、また、同じ志を掲げ、ともに「明るい豊かな社会の実現」に向けての同志としても心強く感じます。そして、創立五十周年を迎えられ、さらに、輝かしい運動を展開されますことをご期待申し上げます。

本年度、大阪ブロック協議会は「誰もが挑戦できる幸せなまち大阪の実現」を基本理念に「勇往邁進 Always Challenging 挑戦なくして成長なし」をスローガンとし、時代の変化やニーズに合わせ、目的を持って懼れず挑戦し続ける考え方のもと、多くの事業を通じて国際都市大阪を確立するために世界共通目標であるSDGsの重要性を広く発信することで一人ひとりが小さなことでも目標に向けて行動に移せる、誰一人取り残さない社会の実現に向けて運動を展開してまいります。そして、岡田理事長をはじめとする公益社団法人吹田青年会議所の皆様と、大阪府下29青年会議所と共に、大阪ブロック大会吹田大会を通じて、これまで以上に力を合わせ、吹田市をはじめとする大阪のために運動を展開してまいります。

結びに、公益社団法人吹田青年会議所の会員ならびに先輩諸兄の皆様にとって素晴らしい一年となりますことを心よりご祈念申し上げお祝いのご挨拶とさせていただきます。



葉狩 暢廣

一般社団法人 箕面青年会議所 第54代 理事長

公益社団法人吹田青年会議所が、このたび創立50周年という記念すべき日を迎えられることができましたこと、スポンサーJCとして心よりお祝い申し上げます。また、今日に至るまでの50年間、貴青年会議所の歴史を積み上げ、ご尽力されてきた歴代理事長をはじめとする諸先輩方、そして現役会員の皆様に深く敬意を表します。

日本万国博覧会が開催されたのがちょうど同じ50年前。私たちを取りまく環境はこの50年間で目まぐるしく変化し、新しい文化・価値観がどんどん創られてきました。そして今年、元号が「令和」に改まり、日本は新しいスタート、勢いで満ちています。この素晴らしい契機に感謝し、次の50年に向けて共にbetterを追いかけ続けましょう。そして、同じ時代にJCで活動する同志として、北摂地域から一緒に盛り上げていきたいと思います。

最後に、公益社団法人吹田青年会議所の益々のご発展と、メンバーの皆様のご健勝とご多幸を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



Marco Lam

香港浩洋青年商會 (JCI Ocean) 会長

It is my great honour to express my warm blessing to JCI Suita in this memorable moment on behalf of JCI Ocean.

JCI Suita and JCI Ocean became sister chapters since 1988, and we visit each other every year.

Last year, we co-hosted a Community development project with 20 teenagers from each chapter. By visiting different local anti-food-wasted organisations in Hong Kong, teenagers understood the food wasting issue and made a long term impact to their life. Both Suita and Hong Kong students shared their learning in Local Radio.

It is not easy to maintain close relationship with each other for over 30 years, hoping that Suita and Ocean will have a lot more impactful projects coming.

Congratulations to JCI Suita for the 50th anniversary !

公益社団法人吹田青年会議所の50周年に際し、浩洋青年商會を代表して心よりのお祝いの言葉をお伝えすることができ、大変光栄です。吹田青年会議所と浩洋青年商會は1988年の姉妹JC締結以降、毎年お互いに訪問を続けています。

昨年、両青年会議所から20名の中学生と共に、地域の発展のためのジョイントプロジェクトを共催致しました。香港にある様々な食品ロスという課題に取り組む団体を訪れることで、学生たちは食料ロスの問題を理解し、彼らの人生に大きなインパクトを与えました。また、吹田と香港の学生たちが学んだことを地元のラジオで発表しましたね。

30年以上の間、親密な関係を続けることは容易ではありませんが、吹田青年会議所と浩洋青年商會が より多くの、影響力のあるプロジェクトをこれからも共に実施していくことができるよう祈念しております。

吹田青年会議所創立50周年おめでとうございます！





大枝 正人

吹田JCシニアクラブ 会長

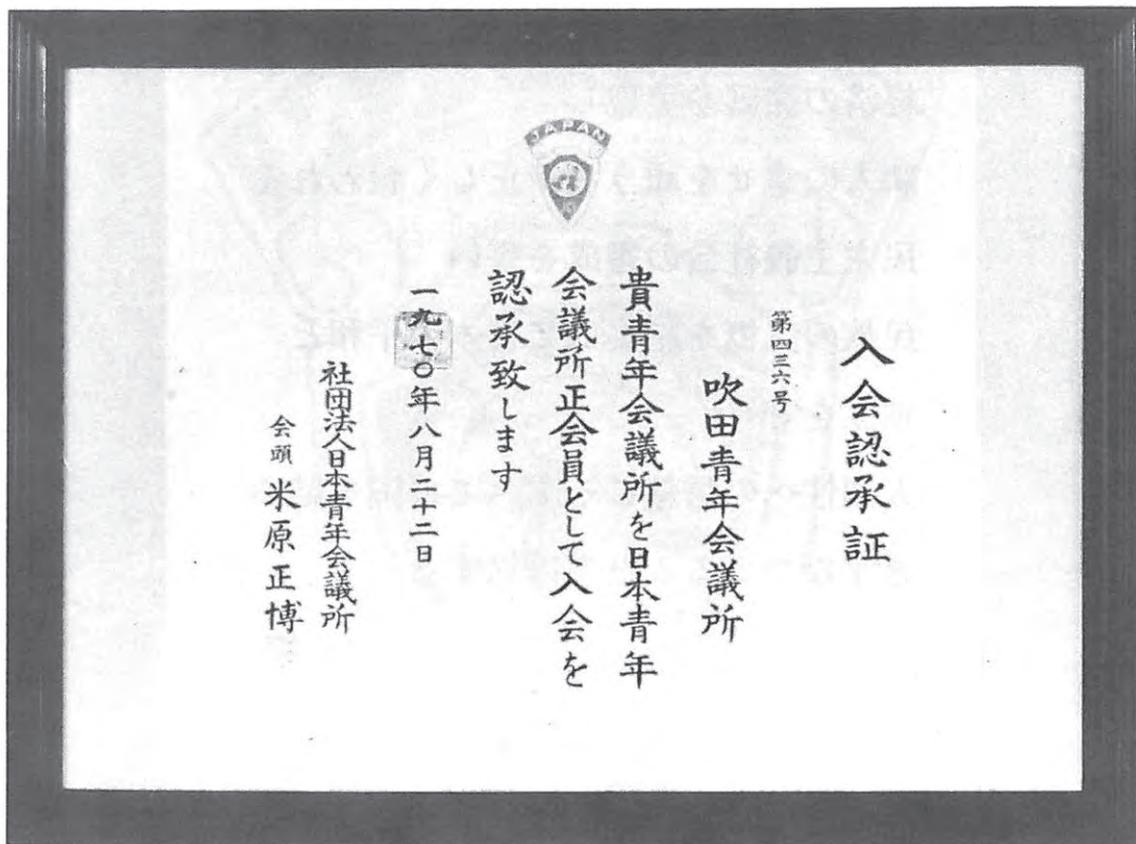
50通りの活動方針

吹田青年会議所が多くの活動を経て、この度、創立50周年を迎えられること、心よりお祝い申し上げます。

ご承知のように青年会議所は、会員からの会費を原資に活動を行い、毎年、会員間の選挙により選出された理事長が、自らの知恵と経験をもとに、その時代が要求する課題に応じた活動方針を策定し、この方針に沿って、全会員の協力の下、活動しています。つまりこの半世紀にわたる、その時代に即した50通りの方針に基づく活動は、多くの会員と関係者の協力により支えられ、地域社会に大きな影響を与えてきました。この間、会員のご苦勞は、並大抵のものではなかったと存じますが、それだけに、意義深く併せてメンバーの成長と友情を育んできたものと思います。そして、全ての活動は、「明るい豊かな社会を築く」という若者の強い意志に基づいて行われてきました。

50周年に当たり、関係各位に厚く御礼申し上げますと共に、ここまで続けてこられた会員全員に敬意と感謝を申し上げます。





'70年JC宣言

理性と法による社会の秩序を確立し
個人の創意と公正な競争を通じて
経済の発展を実現し
隣人の幸せを願う者が正しく報われる
民主主義社会の達成を誓い
民族の気概を結集して
日本の平和と独立を守り
人間性への信頼こそすべての国を結ぶ
きずなであることを確信する

創立宣言文

わが郷土吹田市は北になだらかな千里の丘陵を仰ぎ、南は葦の葉繁れる淀の河畔を臨む豊かな自然に恵まれて発展に発展を続け、いまでは国内外に誇る近代文化都市としてさらに飛躍的な発展を遂げつつある。また一方ではこうした豊かな資源を生かして開かれる“世紀の祭典”日本万国博覧会開催都市として、その名も広く全世界にとどろきわたっている。こうした重要な時期にあって志を同じうするわれわれ青年が一致団結し、英知と勇気と情熱をもって、わが郷土吹田市発展のために貢献することを決意した。

さらに1970年代という激動する世界の経済情勢に対応するため、われわれは深い友情と一層の自己修練に励み、さらに明るい豊かな街づくりに総力を結集すると共に人間形成に努力しなければならないと信ずる。

今こそ社会的・国家的・国際的な識見をもって新時代の指導者理念の創造に努力する青年会議所運動を全面的に支持し、日本青年会議所への加入認承を得るため、ここに仮吹田青年会議所の創立を宣言する。

昭和45年4月12日



創成期メンバー対談



瀧川 メイシアターは1985年4月1日に建設されました。それまで吹田にはホールがなかったんです。僕は当会の10周年(1979年)の実行委員長をしたのですが、その前年理事長をしたときに吹田のニーズを探ろうということで市民の意識調査等をしたんです。その調査の中で文化教養都市というプランニングが出てきました。

川上 そしてそれを10周年の時に継承して、事業を行いました。

瀧川 10周年の事業の時に満員の聴衆の中で「文化会館を創って欲しい」と提言したんです。そしてその事業で得られた収益97万3千いくら端数まで全額を文化会館建設のために使って欲しいと市役所に寄付を

しました。それから市が次年度の予算に建設調査費として1000万円とわたしたちが寄付した97万数千円を予算計上し、議会上がりしました。

川上 当時、市議会議員として活躍し始めたメンバーが議会でこの97万数千円の半端は何ですかとあえて質問してくれました。おかげで、吹田JCIが寄付をしたのだと多くの方に知っていただけのこととなりました。本当に彼らの機転に感謝しています。

司会 現役当時様々な経験をされ、ご卒業後も地域でご活躍されてこられた先輩方にとって、JCIとは。

瀧川 三人ともJCIで人生が変わったことは間違いのないね。

井上 僕が一番変わったと言われますね。皆の前で話するのが苦手だったのが、出来るようになりまし。JCIの三信条はよく出来ていると思います。JCIって学校でもないし、訓練場でもないし、一生の間ができる。JCIは40歳までの間で、卒業までの期間でそれだけの仲間と一生の絆ができるか。JCIは日本全国にありどこに行っても友人がいます。日本JCIに向したおかげです。関山さんが全国に吹田JCIを知ってもらうために当時は9名の会員を日本JCIへ送り出しました。吹田の外にも出ていくことで多くの学び、見返りがあると後になって本当に良かったと感じています。

瀧川 JCIで学んだことはたくさんあります。JCI活動により吹田市では多くの方が顔と名前を知ってくれるようになりました。人間の幅、社会における幅も広がった。入会して50年たった今も先輩、後輩

とつながりができて人生の人間的な大きな財産になる。JCIは長くやってわかれることが沢山ある。ちょっと入ってすぐに卒業してしまうとつたいないと思います。僕は、吹田生まれではないし、働く場所でもなかったけれど、JCIを通して吹田市民になれたと感じています。吹田JCIに入って良かった。今の自分があるのも始まりは全てJCIだったと思っています。もともとと多くの方に吹田JCIに入ってもらって、大きな組織を創っていてもいいですね。

川上 本心にJCIに入って良かったと思います。歯科医院をしていたので、診療時間が決まっております、自分で時間を作ることが難しかったが、JCIをする中で、時間管理をすることが出来るようになりました。わたしは、井上さんはすごいと思っっているんです。吹田の人でもなく、縁もゆかりもなく、一人で税理士事務所を立ち上げたばかりで入会され、体調を崩されたときはどうなるかと心配しましたが、その後、理事長をして、日本JCI委員長までなかった。卒業後もその姿勢は変わらなかつた。井上さんがすごいのはとにかく逃げない。素晴らしいJCI生

活を送られているので、体験談を聞いてほしいと思います。私は創立当初から彼がどんなに大きくなっていく姿をずっと近くで目の当たりにさせてもらっている。JCIはこういう人を作ることができる、こういう人をつくった組織なんだということを誇りに思っています。

司会 次の100周年に向けてメッセージをお願いします。

井上 青年会議所とは青年とついでいる。これが大切で、青年という時代は何が許されるかという挑戦すること。やってみて失敗しても失敗が次の時代の糧になるので、最初から出来ないではなく、その先の夢を語って、理想に向かって一生懸命頑張る挑戦し続ける団体であって欲しいと思います。

瀧川 JCIとは失敗の連続なんです。活動する中でいろんな人と関わって、そしてまた次に挑戦してみたいという想いが広がる。当たって砕ける精神で失敗してもいい。こんなこと無理だろうと考えずに、どんな理想に向かってやってみよう。それがJCIです。

川上 JCIに入っている人は自分が変わっていつていること、成長を実感すること。そしてもっと大きく・もっと広く・もっと高く成長を求め、掴んで欲しいと思います。

創成期メンバー対談



写真左より
川上 浩邦 先輩(第10代理事長) 井上 暎夫 先輩(第6代理事長)
瀧川 紀征 先輩(第9代理事長)

司会 吹田青年会議所(吹田J

C)の創立総会開催に至るお話をお聞かせください。

井上 私は、毎日放送の山本岳さんからのお誘いで「JICって知ってるか」と声をかけていただきました。JICは知らないが青年会議所は知っていると答えました。当時、森下仁丹の代表取締役であった森下泰さんが大阪JICの理事長をされているのを新聞で知っていました。その森下さんから準備委員会に誘われて、知らない間にメンバーになりました。

川上 認証が436番で近隣のJICより吹田は遅いですよね。当時、吹田には組織力がなかったため、スポンサーJICの箕面青年会議

所には大変お世話になりました。私は、父親がロータリークラブのメンバーであったので、そのご縁で吹田JICの創立準備委員会に入りました。当時商工会議所には、毎日放送も加盟していたので社員の方をJICにお誘いしました。そうして次第にメンバーが増えていき、創立総会を63人で迎えることができました。

司会 想い出深い事業や、取り組みなどについてお聞かせください。

川上 そうですね。当時は毎日放送の社員さんがおられたこともあり、式典等の準備はプロのやり方を教えていただきました。シナリオも秒単位で、本当にきっちりとした設営を仕込まれました。他には、エンターテイメントとしてNHK紅白歌合戦に出場されていた芦野宏さんに来ていただいたりしました。

井上 当時は例会会場に決まったところがなかったから、色々なところで開催しましたね。アサヒビルや商工会議所、当時摂津信用金庫(現北おおさか信用金庫)の上の会議場などお借りしながらやっていましたね。

瀧川 事務局も摂津信用金庫の駐車場にプレハブを建ててもらってね、2階だからすぐ揺れるんですよ。怖かったですね。

司会 1973年にサイゴンJICと1975年には下田JIC、犬山JICと姉妹提携をされましたお話を聞かせいただけますか。

井上 箕面JICとサイゴンJICが姉妹提携していて、サイゴンJICが他のLOMとも提携したいということで当会に声がかかりました。調印式をするためにサイゴンに行きました。当時はベトナム戦争中でしたから、郊外へ行く途中で兵隊に止められたり、サイゴンの飛行場は軍用と併設だから軍用の飛行機も飛んでいました。ご存知の通り、1975年に首都のサイゴン(現ホーチミン)が陥落し、ベトナム戦争が終わりました。サイゴンJICからサイゴンが陥落する直前に連絡があり、船を借りて日本に行くから力になってほしいと要望があったので、日本政府に掛け合いましたが政府の回答は難民の受け入れは不可。力になれませんでした。

井上 犬山JICと下田JICとの交流については、吹田の認証番号が436でしょう。犬山と下田の間の番号が吹田JICの番号なんです。第5代理事長の関山さんが理事長会議で席が隣同士だったというので声をかけてきて。(笑)特に他には理由もなかったのですが、数回交流をして、家族会も一緒にしましたね。ゴルフも一緒にしました。

司会 当時、ロックフォード、カントレイ少年合唱団との交流が盛んだったようですが、どのようなきっかけで始められた事業ですか。

井上 私たちメンバーが、万博後国際化が進むという機運の中で英語を学びたいという想いから始まったものでした。外大の先生を訪ねて行ったら、君たちが英語を学ぶのはもう遅いから子どもに学ばせなさいと。(笑)そこで、委員会で子どもたちが英語を学ぶ事業として英会話教室を開催しました。生駒の方で英語しかしゃべってはいけない合宿をし、そこで京都外大の小谷先生と知り合って、子ども達が小学生の時に中学生になるまで頑張ったらアメリカに連れて行くって言ってしまったものだから。言ったときは本当に連れて行くとは思っていなかった。励みになればと思っただけなんです。まさかです。中学生まで残った子が4人います。現実には連れていくことになりました。(笑)小谷先生にロックフォードの商工会と繋がりがあったため、子供4人と僕で子どもが2人1組で2週間、ロックフォードに連れて行きました。これがロックフォードとの交流の始まりです。

瀧川 あの事業は、その後も何度かアメリカへいきましたね。ロックフォードからも日本へ来てくれて。海外へ行かせるなんてとんでもないという文化でしたから、家族全員で来日されて。受け入れは本当に苦労しました。

司会 当会が新年賀会等を開催しているメイシアター建設にあたりJICが寄与したと伺いました。メイシアター建設に至る経緯をお聞かせください。

50年の歩み

1970

- 日本万国博覧会が大府吹田市で開催
- よど号ハイジャック事件



人類の進歩と調和を目指して

初代理事長 木村 俊之

- 創立総会
- 勤労青年プール紹介
- 万博ホスト・ホステス水泳大会
- 吹田市制30周年記念参画【吹田市民の花“さつき”決定】
- 認承証伝達式

1971

- マクドナルド銀座1号店開店
- 沖縄返還協定調印



フレンドシップ

2代理事長 曾呂利 昌弘

- 新年賀会始まる
- 日刊紙記者クラブ懇談会始まる
- LIAプログラムの研修
- 家族ボウリング大会
- 吹田JC広報誌創刊号発行
- 排気ガス調査
- 夏の家族会始まる
- 児童招待スケート大会始まる
- クリスマス家族会

1972

- 札幌オリンピック開催
- あさま山荘事件
- 沖縄返還



明るく豊かな地域社会づくり

3代理事長 井上 義信

- 市民意識調査
- 交通標識総点検
- 児童英会話教室始まる
- 市民代表者懇談会
- JC婦人会の集い
- 一日交通指導員
- LIAその実践

1973

- 第1次オイルショック



J C運動は市民のなかで

4代理事長 増田 泰士

- 「親と子」と「土」の1日
- 吹田青少年団体代表者会議
- ベトナム公式訪問
- 子供カーニバル自転車安全教室
- 空地解放運動
- ブルーライン作戦「青少年に夢と希望を」

1974

- プロ野球 長嶋茂雄が現役引退



見なおそう、見きわめよう、そして自ら行動しよう

5代理事長 関山 守洋

- 吹田JC 5周年記念式典
- 健康まつり
- キリン草撲滅運動
- スズムシ作戦
- 消防フェスティバル始まる
- 淀川100 野球祭
- アジア青年の船
- なかよしJCの締結

50年の歩み



50年の歩み

1975

●山陽新幹線 岡山～博多
間開業



挑戦しよう!! 今こそ地域にJCを

6 代理事長 **井上 暎夫**

- 「クリーン作戦」のクリーンデー
- 花壇寄贈
- 護美箱贈呈
- フェスティバル淀川101
- 吹田JC OB交歓ソフトボール大会
- あすなる100・吹田の史跡をたずねて
- ハイキング始まる
- 「吹田市長」を囲んで

1976

●ロックード事件



磨け JAYCEE 活かせJC

7 代理事長 **加野 元**

- 日本JC京都会議
- 花の種配布
- 第7回「吹田まつり」主管
- クリーンデアンドクリーンデー
- 淀川102
- 消防教室始まる
- LD道場
- 交通問題を考える会

1977

●プロ野球 王貞治がホー
ムラン世界新記録



考え、行動し実現しよう 素晴らしいJC、明るい社会

8 代理事長 **藤満 宣夫**

- 元旦マラソン
- 会員錬成合宿
- 児童ロックフォード派遣
- 交通安全ワッペン寄贈
- 淀川103 淀川マラソン
- 吹田まつり協力
- 都市分析研究
- 交通安全パレード

1978

●日中平和友好条約締結



広げようJCの輪を

9 代理事長 **瀧川 紀征**

- ロックフォード友好協会歓迎吹田デー
- 都市環境実態調査
- 我経営及び職場を語る会
- 日本JC褒賞 国際平和賞受賞
- 新入会員セミナー
- 吹田市民の木発表【クスノキ】

1979

●東京サミット開催



躍進と熟成をめざして

10 代理事長 **川上 浩邦**

- 子供英会話教室
- ロックフォード市訪問
- 会員英会話教室
- アジアコンファレンス吹田JCツアー
- 経営セミナー
- 創立10周年記念式典
- 外国人懇親会
- 市政懇談会

50年の歩み



50
年
の
歩
み



50年の歩み

1980

- 原宿の歩行者天国に竹の子族が現れる
- イラン・イラク戦争



もっと知ろう人間を 社会を 世界を

11 代理事長 関山 正彦

- JC英会話サークル
- 家族親睦ソフトボール大会
- ロックフォードJC吹田デー
- 外国人懇親会
- 中学生弁論大会
- JCIアジアコンファレンス参加「シンガポール」
- 交通安全運動
- 史跡ハイキング
- JCI世界大会 大阪にて開催

1981

- 京都大学の福井謙一教授がノーベル化学賞受賞



考えよう行動しよう 明るい吹田を市民と共に

12 代理事長 成尾 紹雄

- 「社団法人」格取得
- 市政懇談会
- 防衛問題研究会
- ちびっ子道場
- LD道場
- 国際井戸端会議
- 青少年文化活動状況調査
- あいさつ運動

1982

- ホテルニュージャパン火災
- テレホンカード登場



自立の心・明日への創造

13 代理事長 中川 克

- チャレンジあつまれチビッコ
- ジュニア・オリジナルコンサート
- オフィスコンピューター研修会
- 市政懇談会 (I・II)
- アジアコンファレンス(宮崎)参加
- 子供カーニバル
- 国際シンポジウム(留学生を迎え)
- 交通安全運動

1983

- 東京ディズニーランド開園
- ファミコン発売



創ろう心豊かな地域社会

14 代理事長 堀田 稔

- 市政市民会議の調査研究
- 今こそ民間外交を(留学生を迎えて)
- 市政懇談会
- スケート大会
- 吹田まつり
- 21世紀シンポジウム(明日の吹田を創るのはあなた)
- 子供サマーキャンプ(姉妹都市スリランカの子供たちと)

1984

- グリコ・森永事件



幸福への挑戦「豊かな心と生きがいを求めて」

15 代理事長 安達 昌秀

- 国際スポーツ大会(留学生及在日外国人を迎えて)
- 錬成合宿(伊勢)
- 市政懇談会
- ロックフォード友好協会歓迎吹田デー
- 記念事業パートI「三世代交流野外フェスティバル」
- 記念事業パートII「チャリティーコンサート」
- 15周年記念式典
- クリーン作戦

50年の歩み



50年の歩み

1985

- プロ野球 阪神タイガース初の日本一
- 日航ジャンボ機墜落事故



「団結と躍進」友情とふれあいの輪を広げよう!!

16代理事長 家村 武志

- LD道場
- 経営スクール
- 教育懇談会
- なかよしスケート大会
- 家族でフィーバー「白銀にチャレンジ」
- 羽幌と吹田の青少年交歓会
- 「親と子」の寺合宿
- カントレイ・イン・吹田「音楽交歓会・ホームステイ」
- ハガキ絵画・イラストコンテスト
- 日本JC褒賞 国際平和推進に関する運動優秀賞受賞

1986

- チェルノブイリ原発事故



明日への可能性を求めて

17代理事長 足立 善信

- なかよしスケート
- 「親と子」のふれあいハイキング
- 吹田市子供野外カーニバル
- 三世代交流ゲートボール大会
- LD道場
- 教育討論会
- 夏の家族会
- 家族ボウリング大会
- 国際フェスティバル
- クリスマス家族会

1987

- 国鉄が民営化されJRに



未知への挑戦

18代理事長 柳川 義行

- なかよしスケート大会
- LD教室 サロンアンドJC
- 経営セミナー
- ちびっ子相撲吹田場所
- 「花と緑」絵画イラストコンクール
- クリエイト・ザ・ニュースイタ「個性あふれ、文化かおる町をめざして」
- 春の交通安全運動 吹田市内大規模駐車場キャンペーン
- 模擬会社設立

1988

- 青函トンネル開業
- 瀬戸大橋開通



「妥協なきリーダーに」夢ある未来社会に向けて

19代理事長 井村 卓治

- なかよしスケート大会
- 吹田市・羽幌町青少年交歓会
- 異業種交流企業名簿発行
- わんぱく相撲吹田場所
- 吹田大ジャンケン大会
- 「親と子」ふれあいコンサート 関西大学OB演奏会
- 会員オリエンテーション「真のリーダーの実態を求めて」
- JCIアジアコンファレンス 吹田JCツアー「ホンコン・マカオ」
- 吹田姉妹JC締結調印式典「浩洋JC」
- 姉妹JC締結スポーツ大会

1989

- 平成に改元
- 消費税(3%)実施
- ベルリンの壁崩壊



ふりかえろう 原点を 進もう 明日に向かって

20代理事長 木村 義雄

- 新入会員セミナー
- LD道場パート(I)(II)
- 経営スクール 吹田青年経済人会議
- なかよしスケート大会
- 吹田市子供野外カーニバル わんぱく相撲
- わんぱくオリンピック ーきみがNO.1
- 吹田市・羽幌町青少年交歓会
- 国際セミナー「あなたのマナーは国際的？」
- アジア太平洋横浜会議参加
- オーシャンJCとの友好事業
- 20周年記念式典

50年の歩み



50年の歩み

1990

- 国際花と緑の博覧会が大阪の鶴見緑地で開催
- 東西ドイツ統一



井の中の蛙（かわず） 大海も知ろう

21 代理事長 西川 哲成

- 1990吹田市民会議 高齢化問題/環境問題
- 吹田市子供野外カーニバル わんぱく相撲
- 子供に夢と感動を与える自然との遭遇（無人島サバイバルキャンプ）
- 二世のリーダーシップを教えるパート（I）（II）
- なかよしスケート大会
- 留学生との交流事業

1991

- 湾岸戦争勃発
- 雲仙普賢岳噴火



限りない未来・それは青年の夢 —明日の地域社会のリーダーに—

22 代理事長 橋本 浩

- 吹田まちづくり・人づくり市民サミット 地域社会における各種団体とのネットワーク
- 親子ふれあいセミナー
- 「楽しさいっぱい!! 交通広場」& 「セーフティライダースクール」
- サマーアドベンチャースクール
- オーシャンJCとの姉妹提携継続調印式及び交流事業
- なかよしスケート大会

1992

- 大相撲 貴花田が史上最年少で初優勝
- PKO協力法成立自衛隊をカンボジアに派遣
- 新幹線のぞみ登場



「創造ろう 未来のまち・ひと・ゆめ」 一心で築く新しい吹田—

23 代理事長 山崎 睦治

- レッツ・クリーン・マイ吹田
- フレンド・オブ・マインド イン吹田
- すいた子供環境サミット 川や自然の緑地、公園や遊びについて
- 1992考えよう、ふるさと地球 環境問題 水質汚染 一般家庭排水について
- なかよしスケート大会
- 吹田市子供野外カーニバル わんぱく相撲

1993

- 皇太子さまと雅子さまご結婚
- サッカー日本代表ドーハの悲劇
- 米不足



君の笑顔に逢いたい

24 代理事長 曾呂利晴彦

- エコスポ'93参画 もったいない運動
- ドッジボールSUITA・JCカップ
- レッツ・クリーン・マイ吹田
- 日港児童交流計画'93
- 吹田市子供野外カーニバル わんぱく相撲
- なかよしスケート大会
- LDタイム委員会対抗スピーチ合戦
- 夢実現ドリカムセミナー I・II

1994

- 関西国際空港開港
- プロ野球 イチローが史上初のシーズン200本安打達成
- 松本サリン事件



開け広がれJC運動

25 代理事長 大枝 正人

- 25周年記念事業
- ひらけひろがれ花の街、すいた
- 平成の船渡御
- 2月度公開例会（地球に平和を—ボランティア活動とは）
- 吹田チャンプ'94
- 地球発見・ふれ愛発見
- —すいた—国際理解の集い
- 吹田まちづくり・人づくり市民サミット
- なかよしスケート大会

50年の歩み



50
年
の
歩
み



50年の歩み

1995

- 阪神・淡路大震災
- 地下鉄サリン事件



熱き燃ゆる想いを地域に

26 代理事長 淀井 満福

- ひらけひろがれ花の街、すいた
- 指導力セミナー「心と身体の鍛錬」
- 自然との共生プログラム
- IHB意識を高める事業
- 全国大会副主幹
- ドッジボール大会
- 吹田操車場跡地利用についての提言
- 吹田市子供野外カーニバル

1996

- ベルー日本大使館入館事件
- 狂牛病発生
- O157による集団食中毒発生



「リーダーシップ」—育もう地域の絆—

27 代理事長 前田 健治

- 吹田まつり
- 「吹田まつり神崎川宣言」採択
- 吹田子供野外カーニバル
- 指導力開発スクール
- ひらけひろがれ花の街、すいた
- 地球市民の自覚をもつための事業
- オーシャンJC来日
- なかよしスケート大会

1997

- 香港、中国に返還
- 消費税5%に引き上げ
- たまごっち流行



「夢をかたちに」—語ろう夢を 続けよう夢の運動 市民と共に—

28 代理事長 橋本 徹也

- 夢エリアに集まれ!「地球市民ジュニア」
- 公開セミナー
- 日本海重油流出災害支援
- 第1回吹田外国人市民会議
- ひらけひろがれ花の街、すいた
- 神崎川宣言に沿った運動
- コスモッチパッチ作製
- ホームページ開設
- 「阪神淡路大震災・いま思うこと、そしてこれから」の手記発刊

1998

- 長野オリンピック開催
- 郵便番号7桁化
- 明石海峡大橋開通



「21世紀へ TAKE A STEP」—育もうフレンドシップ—

29 代理事長 木田 昌宏

- 京都例会
- ひらけひろがれ花の街、すいた
- 市民とのフレンドシップ事業
- ドッジボール大会
- オーシャンJC来日・訪問
- 「内なる国際化」への運動(吹田外国人市民運動)
- ガンバ大阪ファンの集い
- 経営者セミナー
- 指導力セミナー

1999

- マカオ返還
- 西暦2000年問題
- 地域振興券発行



「まちびとがここで築く新時代」～ここはいつもグローカリズム～

30 代理事長 西形 方良

- 創立30周年記念事業
- ひらけひろがれ花の街、すいた
- 吹田まつり
- 吹田外国人会議
- 国際交流フェスティバル
- 宇宙(ソラ)と地球(ホシ)とぼくたちと 星空学級'99
- 誰だって輝きつづける愛がある 吹田ボランティアフェスティバル
- 創立30周年記念大会 記念講演
「いま再び考えよう人類の進歩と調和」
「これからの人類の進歩と調和」

50年の歩み



50
年
の
歩
み



50年の歩み

2000

- 2000円札発行
- 三宅島噴火



まちのハーモニーを奏でよう ―まちづくりネットワークの構築へ向け―

31 代理事長 石川 勝

- 吹田ローターアクトクラブ合同例会
- 家族例会 オーシャンJC・外国人家族と共に
- ひらけひろがれ花の街、すいた
- 吹田まつり 神崎川会場
- ジョイントプロジェクト
- ドラゴンボートレース参戦
- ～青少年の環境教育～
- ボランティアフェスティバル2000 in 万博
- クリスマス家族会

2001

- アメリカ同時多発テロ
- ユニバーサルスタジオジャパン開園
- 東京デイズニースー開園



「たすけあいの心」組織へそして地域へ ～力の根源は人間力にあり～

32 代理事長 尾形 丈夫

- サッカーフェスタ in 吹田
- 海のセミナー2001
- 異業種交流名刺交換会
- クリスマス家族会
- オーシャンJC訪問
- 春のお花見家族会
- 吹田のシンボルを描こう美術展

2002

- サッカーワールドカップ日韓大会開催
- 日朝平壌宣言



まちに笑顔、地域にゆめを「こころ社会再創造物語」

33 代理事長 坂本 一成

- サッカーフェスタ in 吹田
- 異業種交流名刺交換会
- オーシャンJC訪問
- オーシャンJCとの連携
- 夏の家族会
- 青少年育成に対する取組み
- (1)青少年を取り巻く問題に関する実態調査
- (2)世代間の相互理解のための試み「きょうはゆうたるねん」
- 青少年海外体験研修(台湾)
- アウトドア一会員研修(大峰山)
- 冬の家族会

2003

- イラク戦争開戦
- プロ野球 阪神タイガースリーグ優勝
- 地上波デジタル放送開始



「感じて 動く」現実を見て夢を捨てるより、夢を見て現実を試みよう

34 代理事長 井上 雄介

- サッカーフェスタ in 吹田
- 吹田の歴史探察
- 3月度出張定例会(長浜 黒壁)
- 夏の家族会
- テーマ：黒壁の戦略とまちづくり
- ジョイントプロジェクト～国内青少年キャンプ～
- オーシャンJC訪問
- クリスマス家族会
- みんな集まれ パート1・パート2

2004

- 新潟県中越地震
- 大リーグ イチローがシーズン最多安打記録達成
- ヨン様を始めとする韓流ブーム



「温個知心」個を尋ねて、先人の想(こころ)を感じ、我々の想(志)を未来へ伝えよう!

35 代理事長 橋本 幸治

- サッカーフェスタ in 吹田
- オーシャンJCとの連携
- オーシャンJC訪問
- 35周年記念式典
- 緊迫・プロジェクトその直前
- Make your day 翔かせ・君の夢翼
- 「近鉄パッファローズ観戦・経験」「ガンバ大阪観戦・経験」「劇団四季観劇・経験」
- クリスマス家族会

50年の歩み



50
年
の
歩
み



50年の歩み

2005

- 愛・地球博が愛知県で開催
- JR福知山線脱線事故



情熱が、^{あした}明日をつくる!

36代理事長 井上大輔

- サッカーフェスタ in 吹田
- オーシャンJC訪問
- 世界が吹田でひとつになる日
- 31ロム合同例会：大阪ブロック事業
- 冬の家族会

2006

- フィギュアスケート荒川静香がトリノオリンピックで金メダル
- ハンカチ王子フィーバー



“妥協なき行動”～愛する我がまちのために～

37代理事長 橋本芳信

- サッカーフェスタ in 吹田
- ボランティアフェスティバル
- 総合学習事業の実施
- 環境教育フェア
- 吹田まつり
- Joint Project in 香港
- ひとつづくり講演会

2007

- 郵政事業民営化
- ゴルフ 石川遼が15歳で日本のツアー史上最年少優勝



優しさ溢れるまちへ～垣根を超えた理解から生まれる優しさを力に!～

38代理事長 山本多通男

- サッカーフェスタ in 吹田
- 吹田市長選挙公開討論会
- 野菜物語 事業説明会・第1～5回
- ボランティアフェスティバル
- 知ってる?仕事の楽しさ!未来の自分!
- 吹田まつり
- 会員開発プログラム(創造・CMについて)
- 冬の家族会

2008

- リーマンショック
- 日本でiPhoneが発売



未来(あした)のために、心をつなぐ!

39代理事長 瓜生晴彦

- サッカーフェスタ in 吹田
- ボランティアフェスティバル
- 未来(あした)のわたしを・・・創造!!
- 環境教育フェア
- 吹田まつり
- 吹田水物語～吹田の水と歴史探訪～
- 冬の家族会

2009

- 衆議院選挙で民主党が大勝利、政権交代
- 裁判員制度がスタート



Believe Your Possibility ～夢と絆が可能にする、すいたのまちづくり～

40代理事長 瀧川健一朗

- ジョイントプロジェクト
- 「D-Suita」
～あなたのDを探してみない?～
- 衆議院議員総選挙公開討論会
- 40周年記念式典
- 11月度公開定例会
「夢をかなえる!無限の可能性」

50
年
の
歩
み



50年の歩み



50年の歩み

2010

- サッカーワールドカップ
日本が決勝トーナメント
進出
- 日本航空会社更生法適用
申請



輝く新しい夢へ・・・ ～ほほえみ拡がるまち吹田の創造～

41代理事長 長井 裕 司

- 「中学生」と「まち」を変えた物語～一緒に作ろう感動舞台～
- 「D-Suita」～子どもが主役のまちキッズタウン～
- 「あつまれ！吹田のエコゼエ」
- 「子育てお悩み解決講座」親が変われば子どもも変わる
- 「知ろうよ！吹田」

2011

- 東日本大震災
- サッカー女子ワールド
カップで日本が初優勝
- 小学校の英語必修化



誠意工夫 ～調和から生まれるコミュニティをつくろう～

42代理事長 堀田 誠

- 吹田市長選挙公開討論会
- 「D-Suita」～子どもが主役のまちキッズタウン2～
- みんなで創ろう感動舞台！

2012

- 衆議院選挙で自民党が
大勝し、政権奪還
- 東京スカイツリー開業



We Have a Dream ～今日よりも明日が理想のまちであるために～

43代理事長 西川 滋 夫

- 「みんなで創ろう感動舞台2012」
- ジョイントプロジェクト2012 in 香港

2013

- 2020年オリンピック・
パラリンピック開催都市
が東京に決定



感動がひとをつくり 吹田(まち)をつくる

44代理事長 小谷 秀 成

- 4月度公開定例会「明日の環境とエネルギーを考えよう！」
- 7月度公開定例会「台所から生まれる家庭の絆」
- 「夢・出会い・感謝」～君の一步が感動を生む～

2014

- 消費税8%に引き上げ



報恩謝徳 ～感謝の気持ちを忘れず、恩に報い、^{したた}強かにまちづくりを～

45代理事長 田 中 敏 之

- 45周年記念式典
- 45周年記念事業
子どもキャンプ「自然まるかじりアドベンチャー」
自然・環境フォーラム「おもしろ自然博 これバッチリ?!夏の自由研究」

50年の歩み



50年の歩み

2015

- 新国立競技場建設計画を白紙撤回
- アメリカとキューバ54年ぶりに国交回復



Feel & Move ! ～愛されるまち 輝くひとのまち～

46代理事長 権野 結

- 吹田市長選挙公開討論会
- ジョイントプロジェクト アメージングレース
- J-City～キッズタウン2015～

2016

- 熊本地震
- アメリカ大統領選挙ドナルド・トランプ氏が当選



もっと、愛そう!もっと、超えよう! ～愛情と挑戦がまちの笑顔をつなぐ～

47代理事長 酒徳里 麻

- 吹田ビジネスプランコンテスト
- キッズタウン2016

2017

- 陸上100m 桐生祥秀 日本人初の9秒台



活眼を開け! ～後世を先見し、輿論の担い手となろう～

48代理事長 後藤 恭平

- 第1回わんぱく相撲 吹田場所
- 吹田JCビジネス交流会2017
- みんなで創ろう!! こどもまつり in 吹田
- 視点を変えるだけで人生が豊かになる～アドラー心理学をコミュニケーションに活かす～

2018

- 大阪府北部地震
- 史上初の米朝首脳会談



face to face ～面と向かって～

49代理事長 中村 昭一

- 第2回わんぱく相撲 吹田場所
- 基調講演・異業種交流会「世の中を変える人材となるために」
- ジョイントプロジェクト2018 エコスタディツアー

2019

- 元号 平成から令和へ



for the better ～あと一つ、あと一歩～

50代理事長 岡田 眞里

- 第3回わんぱく相撲 吹田場所
- 吹田市長選挙公開討論会
- 50周年記念式典
- 大阪ブロック大会 主管
- 50周年記念事業

50年の歩み



テーマ別の活動紹介

青少年育成 みんなで創ろう感動舞台

あらゆる世代間の交流の場を作り、特に子どもたちの自立性・主体性を培うことができる市民主体のコミュニティを創りだすことを目的に、2011年に実施された事業です。この事業は2012年も継続事業として続けられ、その後は吹田夢☆志団として、現在も感動舞台を作り続けています。



2011年～2012年
(堀田誠42代理事長～西川滋夫43代理事長)

健康 健康まつり

1974年1月30日健康を考える大阪会議から8回の各種会議を経て、4月29日に5周年記念事業として万博跡地において、開催されました。次代の吹田市民が豊かな人間性を持つことを目的に、高度成長という見かけの繁栄から、自然と人間が調和する社会への転換を発信しました。



1974年
(関山守洋5代理事長)

歴史 吹田の歴史探索

生まれ育った地域の歴史、文化、伝統を理解することで地域に対する愛着心を育み、地域の人々へ歴史を語り継承していくことを目的に、2003年5月17日に市内の小学校の親子を対象に実施し、土器作りや古代食試食、発掘された土器に触れる体験を実施し、卑弥呼の時代へタイムスリップする体験をすることができました。



2003年
(井上雄介34代理事長)

環境 レッツ・クリーン・マイ吹田

市民サミットがただの会議でなく、具体的な課題解決のための取り組みとなるため、市民が共通するゴミ問題を提唱し、吹田市中の企業や諸団体、各自治会、行政、小学校などと共に実行委員会を作り、9月20日に一斉清掃を実施し、市内で11.3tのゴミを集め、市民全体でゴミ問題に取り組みました。



1992年
(山崎陸治23代理事長)

経済 経営スクール吹田青年経済人会議

1989年6月17日に20周年記念事業として、「快適で活力ある地域社会の創造」をテーマに、「高齢化問題」「教育問題」「街づくり」の3テーマを採り上げ、青年経済人として「明るい豊かな社会づくり」を目指し、経済活動を通じて地域の活性化を図るために、我々に何ができるのかを第3部構成の講演と、テーマごとの分科会を通して活発に意見を出し合いました。



1989年
(木村義雄20代理事長)

テーマ別の活動紹介

国際交流 ロックフォードとの交流

1977年に子ども平和使節団をロックフォード市へ派遣したことを契機に、1978年には民間平和友好使節が来吹し、その後、1984年のロックフォード友好協会歓迎吹田デーに至るまで継続して国際交流の事業を実施しました。



1977年～1984年
(藤満宣夫8代理事長～安達昌秀15代理事長)

平和 ～世界が吹田でひとつになる日～

2005年5月1日に50年前に大阪万博が開催されたまち「吹田」を日本全国、世界中にPRすることを目的に、世界の平和を祈りながら、吹田市内の各種諸団体の方々と協力し、最も多く的人数で人文字の国旗をつくるギネス記録に挑戦しました。当日3千人の方が集まり、ギネス記録申請の権利を得ることができました。



2005年
(井上大輔36代理事長)

ボランティア 吹田ボランティアフェスティバル

2018年まで続いたボランティアフェスティバルは、1999年7月3日に開催された30周年記念事業から端を発しました。ボランティアを通じて、まちづくりとは一人の市民の行動から始まることや、各種諸団体や市民一人ひとりの繋がりのパイプ役に当会がなることを発信する事業となりました。



1999年
(西形方良30代理事長)

まちづくり すいたまちづくり 人づくり市民サミット

広い視野から将来の吹田を展望するために、各種諸団体の意見交換の場としてのネットワークづくりを目的に1991年の事業として開催されました。円卓会議で各種団体の「夢」について討議を行ない、共同声明というかたちで長期的なまちづくりの展望を発信しました。



1991年～
(橋本浩22代理事長)

提言 ～吹田まつり神崎川宣言～

1994年に神崎川でのまつりと戦前まで行われていた船渡御の再現をと提案し、1996年には「吹田まつり神崎川宣言」を採択、1999年7月31日第30回記念吹田まつり前夜祭「神崎川会場」を開催することに繋がりました。市民の手によって創られる「吹田まつり」を目指した数年間の活動が運動となった結果だと言えます。



1994年～1999年
(大枝正人25代理事長～西形方良30代理事長)





本質をみつめ、 未来を創造する



55周年に向けた中長期ビジョン

本質をみつめ、未来を創造する

我々は明るい豊かな社会を実現するために、
過去を振り返り、今を見つめ、
「ヒト・モノ・コト」の本質を見極め、
未来を先見し、「修練・奉仕・友情」の
三信条を胸に仲間と共に進み続ける。

【吹田を支える人材の育成】

本質を捉える思考力を育み、まちの未来を支える人材を育成する

【地域力を向上するまちづくり運動】

地域のニーズの本質を見極め、持続可能な事業を立案、展開し、まちづくり運動へと発展させる

【思いやりで繋がる地域共育の構築】

人が繋がり支え合うことの本質を理解し、人と人が育て合い、繋がり続けられる仕組みを構築する





堀田 誠 先輩(第42代理事長)

淀井 私が理事長の時に起きたのが「阪神淡路大震災」でした。当時は約6000人の方が犠牲になりました。また私自身、(これほど大きな地震は)はじめての経験でした。地震発生後3日目に、会員全員におにぎりを作ってくるよう依頼し、現地へ届けに行きました。道路が分断され、また現地へ向かう車で大渋滞でした。西宮北ICまで車で行きそこからは歩いて西宮市役所へ向いました。市役所へ着くと人は誰もいない。自分たちの足で避難所等を探し届けました。震災があったのは真冬の1月でしたから、とにかく寒かったです。被災された方が少しでも暖をとれるように5日目に現地入りした時は、炊き出しを行いました。今と異なり、携帯電話も普及していませんでしたから、テレビからの情報しかなかった。どこで何が不足しているのかを調べるのに苦労しました。

司会 平成30年6月18日に最大震度6弱の「大阪府北部地震」が発生しました。近年「南海トラフ地震」発生への切迫性が高まると言われる中で、予想される災害時や、事前の備えに私たちが吹田のまちのために何ができるのかを、「阪神淡路大震災」「東日本大震災」当時の理事長でありますお二方にお伺い致します。当時支援に行かれた様子やご苦労、後に感じられたことなどをお聞かせください。



淀井 満福 先輩(第26代理事長)

司会 当時は、マスクミが報道した避難所にはかり救援物資が届いたという話もあったと記憶しています。

淀井 その通りでした。当時、我々は、日曜日に炊き出しをするために金曜日自転車を持って現地に入り、次に支援が必要なる所を事前に調べるように対応していました。この年は、震災と同時にボランティア元年と言われる年でしたから、他のボランティアと重ならないように準備も念入りにしなければなりません。

司会 堀田先輩が理事長を務められた年は、「東日本大震災」が発生しましたが、「阪神・淡路大震災」とは、時代も変わりましたが、被害状況も異なっていたかと思えますが、どのようなご支援をされたのでしょうか。

堀田 淀井先輩の時との大きな違いは、被災地がかなりの遠方であったこと。そして、福島第一原発が被災したことにより、放射能の影響についての初期情報が混乱していたことでしょうか。初期支援については、近畿地区協議会が「JIC近畿地区災害支援ネットワーク」を発動しました。茨木インターの近くに救援物資を集積する場を設置していたので、日本JIC災害対策

本部からの要請物資をLOMメンバーに伝え、各人が集積場へ持ち込んだのを記憶しています。時代も変わり、被害状況は違えど、変わらないのは、相手の立場に立って考えて、今何が必要なのか？何ができるのか？を考え、そして行動することが一番の支援であると考えます。

堀田 JICとしては、「お互いさま」ということを念頭に置いて、地域団体との連携をとれるように仕組みをつくっておくべきだと思います。新年賀会にご臨席いただいている諸団体の方々を中心とした繋がりを維持していくことは大切なことだと思います。そして、JICのネットワーク。日本JICや近畿地区協議会、大阪ブロック協議会との間にも支援する輪、支援される輪があることを、理事長だけではなく会員全員が常日頃から認識しておくことです。

淀井 そうですね。そして、市民の皆様には、個々で防災対策をしていただくことです。地震が起こってから食料など買うのでは遅い。あるうちに準備しておく。それに尽きると思います。家具はとめる。入り口は地震が起きたらすぐ開けるとか。日頃の準備が大切です。

堀田 最後に、東日本大震災の際、姉妹提携の香港浩洋青年商會から義援金を約100万円ご寄付いただきました。正副役員で協議をして、被災した小学生に行き渡ることを願って、岩手県の大槌町教育委員会へ訪問し全額寄付しました。国境を越えても、世界には素晴らしい仲間がいる。このご縁とご恩を大切に今後も頑張っていたらと思います。

堀田 先輩方の活動が評価され東日本大震災の際、JIC関係の車両は、災害緊急車両に認定され非常にスムーズに受け入れただけでした。

司会 最後に、お二方が災害に備えておくべきだと思われることをお聞かせください。



司会 今年で第50回を迎える吹田まつりですが、第5回から関りが深く、今に繋がっていると聞いています。吹田まつりと青年会議所（JC）の歴史についてお話を聞かせてください。

井上 万博で花火を打ち上げるので、警備のお手伝いが出来ないかと依頼が来たのが最初です。若い働き手がいなかったからJCに声をかけてきたというところですね。主催は本市役所と連合自治会でした。

川上 吹田市と連携して、連合自治会を長にして前夜祭の南千里会場で300発の花火の警備を担当しました。

井上 僕が理事長の時にJCが主体でまつりを開催して欲しいという話が出て、急に出来ないで翌年の加野さんが理事長の年度の時に引き受けようということになりました。

川上 それで昭和51年の第7回吹田まつりです。

井上 その前の第6回の時に、吹田市と連合自治会、労働組合、商工会議所、青年会議所の5団体協議会が吹田まつり実行メンバーになりました。JCだけで引き受けてしまうと通常のJC活動ができなくな



井上 暁夫 先輩(第6代理事長)



川上 浩邦 先輩(第10代理事長)

るからです。5団体協議会は、加野さんリーダーシップを発揮して段取りを整えてくれましたが、実際は上手く持ち回りにはなりませんでした。

川上 このような経緯で、第7回吹田まつりをJCが引き受けることになりました。その時の理事長が加野さんですね。そして第7回吹田まつり実行委員長を井上さんがされました。

司会 どんな吹田まつりを創られたのですか。

井上 JCがやるなら、今までのカラーを破ったものをやりたいなと思いましたが。そこで市役所にどのような規模で開催したいのかを聞きに行きました。そして、JCがやるときは市のお金を使わずに自分たちでお金を集めようとして、吹田まつりの新聞の広告費を集めたり、広報誌に載せたりして協賛金を集めました。また商工会議所で商店街を活性化にしたいという課題を抱えておられたので、商店街で使えるクーポン券などをJCで発行して商店街の活性化に繋がりました。団扇や提灯も作って宣伝を回りました。パレードもやる、吹田の古い祭りを復活させる。イザナギ神社の神輿、高浜神社の神輿を出しても良かったり、昔からの伝統の迎え火を

焚いたりもしました。

川上 パレードにはこだわりの持ちました。色々な団体に声掛けをして、神戸まつりのようなパレードにしなければならぬ！といった強い気持ちを持って行きました。箕面から当時滝道を走っていた観光馬車をお借りし、飾り付けしパレードに参加していただき、また太鼓をパレードに入れるなど、様々な工夫を凝らし乗り越えました。たくさん悩みました。

井上 アサヒビールにも参加の呼びかけを行いました。市民に開放した工場にしようかと。

当時は高い壁に覆われていたので、話し合いには時間がかかりましたが、吹田まつりの日は市民に工場を開放してくださいました。吹田まつりをしたことで、JCの名前が地域に根付いていきました。

川上 地域の方からも頼りにされるようになりましたね。

瀧 JCはまつりをする団体だと思われていたくらいインパクトを与えられたと思います。その後も第14回まで私は関わらせていただきました。



瀧川 紀征 先輩(第9代理事長)



井上 吹田まつりの実施を始め、当時のJCにはパワーがありました。

瀧 地域のリーダーとして活動していました。

司会 現在の吹田まつりも、第7回からの先輩方によって築かれたものが今も受け継がれています。今年で第50回を迎えますが、今後も市民の方に共感してもらえる素晴らしいまつりにできるよう引き続き取り組みます。

対談「姉妹青年会議所の締結」



柳川 義行 先輩(第18代理事長)

柳川 当時の報告書を読み返すと、調査研究ではアジア圏の国や地域を中心に、香港、シンガポールなど4つほど候補が挙がっていました。はじめはベトナム・サイゴンJICとの姉妹締結を検討していましたが、社会情勢の変化なども相まって締結には至りませんでした。最終的には、候補の1つだった香港に足を運んで、交流をし、オーシャンJICと姉妹締結するのが良いだ

司会 香港の浩洋青年商會(オーシャンJIC)とは、1987年に柳川義行理事長のときに姉妹JIC締結に関する調査研究をされて、翌年、1988年に井村卓治理事長のときに姉妹締結をされたと聞いています。海外のJICであるオーシャンJICと姉妹締結しようとしたきっかけをお聞かせください。

井村 当時、吹田青年会議所(吹田JIC)が創立20周年を1989年に控えていて、吹田市がオーストラリアのバンクスタウンと姉妹都市提携を結んだ頃でした。世の中の状況も海外と姉妹都市を結ぼうという盛り上がりがありました。こうした背景もあって、吹田JICでも海外のJICと姉妹締結をしようと調査研究を始めました。創立20周年の前年に姉妹締結をして、周年式典に参加していただくと考えて進めていきました。



井村 卓治 先輩(第19代理事長)

ろうと判断することになりました。それから30年以上、姉妹JICとして親しい関係が続いています。

司会 当時、他に海外のJICとの交流はあったのですか。

井村 姉妹締結したのはオーシャンJICですが、過去にはアメリカ・イリノイ州のロックフォードJICと、友好JICとして交流してきた歴史があります。少年合唱団や英会話教室などの事業で関わってきました。

司会 当時、アメリカ人のプロレスラーに來日してもらって、大阪の繁華街と一緒に歩いたらすごい人だかりができたというエピソードを聞いたことがあります。

井村 JICは世界中とつながっているもので、過去にもこうした海外のJICと交流してきたことも、姉妹締結をする伏線としてあったと思います。

司会 数ある国と地域の中で、姉妹締結の相手として香港のJICを選んだ決め手は何だったのですか。

柳川 調査に行った先で実際に現地の人と会って、色々と話してコミュニケーション

ションをとる中で信頼関係ができたというのが一番ですね。オーシャンJICもまだ設立間もない頃で、若くて活気のある方が多く、前向きに姉妹締結を考えておられた印象が残っています。その後、オーシャンJICの初代理事長の王ウオンさんと姉妹締結の話を進めていき、第2代理事長のダニーロウさんと締結式を行いました。

井村 姉妹締結した当時は、香港も中国への返還前だったので様々な情報が飛び交っていました。実際に香港のJICと締結して、今後どういった関係づくりができるか見通せないのではという意見もありましたが、30年以上も当時と変わらない信頼関係を築いてくれることは本当に嬉しく思います。

司会 確かに当時の香港はまだイギリス領でしたね。今でも会員同士の交流が続いていて、互いに楽しくお酒を飲み交わすことも多いです。そして、今でも香港に行くくと「柳川さん、井村さんは元気か?」など、お二人の名前が出るほど姉妹JICのつながりを大切に思ってくれています。

柳川 当時の吹田JICは会員数が100名近くで非常に勢いがありました。実際に姉妹締結するまで何回も現地へ行ききました。振り返れば、あの勢いはそう簡単にはできなかったものじゃないと感じます。

司会 現在の活動や交流では「ジョイントプロジェクト」を3年に1度、互いの地域を訪れて合同事業を実施しています。当時はどのように友情を深めて、地域課題を話し合い、共有していきましたか。

井村 ジョイントプロジェクトといった合同事業は、私たちのもともと後になって実現してくれたものです。当時は、とにかく

く会員同士が行き来して、国や地域を超えて親睦を深めるというのがメインでしたね。

司会 次のジョイントプロジェクトは、再来年(2021年)に日本で行います。現在のメンバーや担当委員長に向けて、何かアドバイスやメッセージをいただけますか。

柳川 このつながりを継続してきてくれたことが一番嬉しい。具体的な事業の内容は、それぞれ担当年度の方がよく考えて取り組むのだから、アドバイスなどはありません。現役会員が頑張ってくればそれで良いと思います。

井村 継続して続けることが姉妹締結に関わった者として一番嬉しい。卒業してからなかなか機会はないけれど、こうして当時を知る香港のメンバーが日本に來られる機会があれば、ぜひ知らせられるとありがたいです。



2019年3月 浩洋青年商會の新年賀会、創立32周年記念式典に参加

司会 公開討論会を開催することになった経緯をお聞かせください。

山本 当時の公開討論会で、日本青年会議所(日本JCI)が目指していたのは「投票率のアップ」でした。私は、市民が選挙に関心を持つために公開討論会を開催するという入り口が間違っていると感じていました。我々は「まちづくり団体」であって、市民がまちづくりに関心を持つことが、市民にまちづくりを広げると考えていたのです。そのため選挙を利用しようと思いませんでした。

司会 その理事長の想いを受けられ、堀田先輩は総括副実行委員長として、それを実現するためにどういう行動をとられたのか、苦労された面も含めてお話しください。

堀田 「全市民に聴いてもらう」という想いを持って、朝夕毎日約2週間、吹田市の各駅でチラシ配りを行いました。それに加えて、新聞広告を打ったり、ラジオCMを打ったりと、予算が許す限り、ありとあらゆる広報活動を行ったと覚えております。結果、市民に対して周知するという部分では、クリアできたのかなと認識しています。



山本 多通男 先輩(第38代理事長)

司会 選挙戦の中で公正さというのも意識されていたと思います。その点において、市長選の「公正さ」というものをどのように捉えて臨んでおられましたか。

山本 最終的には公正もへったくれもないとなりました。立候補予定者たちには、それぞれ平等に時間だけは与えるので、こちらから熱く質問して、あなたたちが熱く答える。そして市民も熱く聞くような体制を作り、会場を絶対満員にして、熱気ムンムンにするからあなたたちがそれに耐えうるかどうか公正だと伝えました。

司会 そのように理事長が仰っている中で、総括副実行委員長として準備をされたということですか。

堀田 そうですね。

山本 彼には満員にしてくれと言いましたが、それは普通じゃない無茶な話です。3日ほど経ったら事業計画書が出てきて、1、2カ月のピンポイントの行動パターンが全部書いてありました。この通り動いたら満員になるからやるだけやという感じでした。

司会 公開討論会にいられた市民の反応を受けての想いなどあればお話しください。

堀田 アンケート結果だけを見ると、次回も開催してほしいという声が圧倒的に多かったです。山本先輩がおっしゃったように、各立候補予定者のまちづくりに対する想いが聞けて良かったというのが、アンケートの回答で多かったと記憶しています。そういう意味ではきっちり意図が伝わったのかなと思います。



堀田 誠 先輩(第42代理事長)

司会 公開討論会を通して、JCIがどのような役割を求められていると感じられておられますか。

山本 市民に対して公開討論会に是非来てほしいねというのは違うと感じていました。今からまちづくりのトップに立とうと意気込みを持った人間がいるのだから、その言葉を真摯に聞けという態度でいいのだと。その上で、お互いのベクトルに優しさが生まれてきたら、もうそれ以上のものは無い。それが生まれた結果を全国のJCIに見せたら、吹田JCIがそこまでできるのだから、我々も頑張ってみようかという流れになる。そうすれば、我々がやっていることが日本中のまちづくりのために役立つ可能性があると考えていました。

司会 堀田先輩はチラシ配りをする際などに、市民の関心を肌で感じられたことがあったと思うのですが、やっていく中で求められているものを感じたことはありますか。

堀田 チラシって中々受け取ってもらえないのです。でも、関心がある人は公開討論会をやるんだということで、どこの団体だと聞き返してくるような反応もありました。いわゆる通常の事業のチラシとかとは全然反応が違ったというのは記憶しています。

ますね。

司会 公開討論会を通じて、吹田の未来ビジョンについてこういうものが必要だなと感じにいられたことを教えていただけますでしょうか。

山本 まちづくりに参加する人を増やそうと言いますが、まず知らなければいけないということです。吹田市ってそんなことしているの、そんな問題抱えているの、このを知ったら人間って必ず動くのです。知らなければ動けないし、知ったからには動かさなくてはならない、知ったからそれを持つてくるから相手に対して優しさが出てくるのです。その優しさを引き出すために、人を動かすきっかけを作つてあげないといけないと感じていました。そこに選挙があつて、「何」を知らなければ動けないかという、最初の段階の「何」というのを見せるのに、一番適していると考えました。

堀田 今思い出すと、当時の公開討論会のチラシのサブタイトルが「知ることから始まる」だったと思うのです。次に「吹田市の未来を語る」というようにして。それで来場者やテレビで見た方も、まず知ることから始めることができたのかなと、今改めて思います。反応を見ていても、タイトル通りというか、我々吹田JCIの想いが伝わったのではないかと思います。



2019年4月に開催された公開討論会のチラシ



庄 慶彦 先輩

司会 キッズタウンの事業を立ち上げた当時の想いやきっかけをお聞かせください。

田中 地域の子供たちは家庭や学校、地域の方々のサポートがあつて大人になっていきますが、日ごろの生活でそのことに気付く機会が多くありません。色々な仲間がいて、助け合ったり、感謝したり、尊敬の念を持ったりすることが大切だと考え、そうした気持ちを育てる事業がしたいと思いました。

「青少年育成」に関する事業を考えたと、子供の「自主性」や「自らデザイン」する力がキーワードとして浮かびました。幼い子供から小学生、高校生までの世代がいる中で、こうした力を育むには小学生を対象とした事業とするのが良いと考え、様々な施設や近隣の事業視察に行きました。当時はちょうどキッズニア甲子園がオープンした頃でした。

子供が楽しんで参加していたら、多くのことを学んでいたというような事業をやりたいと思っていました。私も子供の時は、学びなさいと言われて学ぶより、楽しいことをして学ぶ方がすんなり理解できましたし、こうした着想をもとにキッズタウンの事業を企画しました。

司会 JCでは地域社会の課題を見据

えた新しい取り組みをする事業が多い側面があります。

その中で、新しい事業に取り組みされて気づかれたことはありますか。

田中 はじめは「仕事」を絡めた事業がしたいと思って企画立案しました。吹田青年会議所(吹田JC)にとっては新しい事業でしたが、仕事を絡めた事業は他のJCでも既に多く事業を行っています。実際に上手くいっているところを参考に、吹田のオリジナルを足すことを心掛けた結果だと考えています。

司会 初めて事業を行う際の準備や運営面での課題や苦労した経験などをお聞かせください。

田中 子供たちが事業に興味を持って、実際に応募してくれるかが不安でした。事業の募集定員が、子ども店長(リーダー役)で80名、子ども店員(一般参加者)で200名としましたが、これほど多くの参加者が本当に集まってくれたか、不安は尽きませんでした。

司会 事業に取り組む中で、手応えや変化を感じる場面はありましたか。

田中 今までお付き合いの無かった地



田中 敏之 先輩(第45代理事長)

域の団体、企業のご協力を得て事業を実施できたのがとても良かったと思います。この当時、企業もCSRに取り組みもうと考えられていたので、具体的に行動する機会が中々無いということなら、是非JCの事業を利用してほしいとお伝えしました。その結果、ご協賛だけでなく、実際に社員の方が来て仕事の説明をするなど様々な形の協力を得て、多くの企業と共に事業を作りに上げたことが大きかったと思います。

庄 参加者では、本番までの準備を進めていくうち、回を重ねるごとに子供たちに自主性が生まれ、来年は子ども店長をしたいという参加者が現れたことが良かったと思います。

実際に、2010年には子ども店員だった子が、翌年のキッズタウンでは子ども店長になった例もありました。2年連続で来てくれた子どもが多かったと思います。

司会 JCは単年度制で運営しています。過去に実施した事業も毎年ゼロベースで企画・検討することが多いですが、2年連続でキッズタウンの事業に取り組もうとしたのはなぜですか。

庄 単年度制の運営をする中でも、良い事業を単年度で終わらせて本当に良いのかという想いがありました。子供の自主性を育む事業が中々無く、様々な背景を踏まえて継続する意味があると感じ、事業を企画しました。

第2回は大阪学院大学に御協力いただき、広いキャンパスを使って事業を行うことができました。子供たちが、地元吹田の大学と関わるといふ点でも良かったと考えています。

司会 最後に、キッズタウンの事業が目指したビジョンや、事業に対する想いをお聞かせください。

田中 1つ目は、地域社会で青少年育成事業をすること。親や学校だけではなく、JCを含めた団体が先ほどの企業を巻き込んで、地域の子ども達を育てて欲しいということですね。

2つ目は、まちづくりや地域活性化は人がいて成り立つものなので、人の育成が急務だということです。若い年齢でこのようなことを考える機会を提供することが大切で、「鉄は熱いうち打て」という言葉通り、考えが固まる前にこのような事業をすることが大切です。そして、キッズタウンを経験した子供たちには、自らが地域で事業を主催する立場に回って欲しいです。

庄 小学生の時にキッズタウン等の事業を体験させてあげることが大切だと思います。JCを含めた地域の団体と、小学校の子ども達が接するという新鮮味があり、その面でもプラスがあると考えます。参加者の保護者にも、JCの活動をもっと知っていただきたいと思っています。



吹田市役所ホームページより「キッズタウン2016」の様子
http://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-shoubo/nishisyobo/senrisyuttyousyo/_82577.html

司会 当会は新公益法人制度開始とともに公益社団法人格を取得しました。なぜ公益社団法人格を取得することを決意されたのか、そのきっかけや想いをお聞かせください。

山本 まず、日本中が「公益社団法人」についての考え方が間違っているのではないのかということから始まりました。公益というのは不特定多数の者の利益の増進という言葉です。ですから、公益社団法人とは、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを目的とした団体でなければなりません。にもかかわらず、調べれば、公益社団法人になるメリット、デメリットという本や記事がいっぱい出てきます。助成金や補助金を受けることを目的とした団体が最初に公益社団法人となつては、日本の公益社団法人が間違つた方向に進んでしまします。公益という言葉が理想の形を示し、日本中で最初に公益社団法人になってあげる、「なる」じゃない、「なつてあげる」ことで、日本中が間違つた方向に進まないだろうと。助成金や補助金を目的とした団体が最初に公益社団法人となつてしまったら、みんな公益社団法人というのはいやほいやメリットがあるのだと、そういう形で動いてしまう。しかし、不特定多数の者の利益というのは、そういう邪な想いがあつては絶対達成できないもので



山本 多通男 先輩(第38代理事長)

す。それを誰が示すのか、それは日本中の青年会議所でしょう。公益になる社団法人の中で、一番純粋な気持ちで活動しているのは我々です。公益になるためにはこうだとか、公益になったらこうだとか、そういうメリットやデメリットを度外視して、我々が不特定多数の者の利益の増進に邁進している団体ですよ、こういうのが公益社団法人として理想の形ですよというのを、今こそ日本中の青年会議所が見せなければならぬと考えました。だから、我々吹田青年会議所(JC)が青年会議所で一番ではなく、日本で一番に公益を取ろうという結論に至りました。

村上 大阪府に、「一番で申請するの一番で認可してください」と言いに行きました。色々困難がありました。結果として青年会議所、大阪府において第一号の認定を受けることが出来ました。(日本では7番目)

司会 公益法人格取得に際して、様々な苦労があつたかと思えます。特にどのような面で苦労がありましたか。

山本 当時の内閣府の議論に出てくる「公益」の意味は曖昧でした。公益を軽んじている政府が許せなくて、申請においても、伝えるのは本当に苦勞しました。その意味を官僚や補助金団体ではなく、我々が決めねばとより強く思いました。制度改革は、民が自ら行動する、官の許可が要らないものです。ですが、大阪府は書類の不備の指摘ではなく、「この目的は公益には認めません」「ここはどうまちづくりになるのですか」等の指摘が多かつたように思っています。たとえば、「世界中の人の平和を願う」という団体は、公益とは認められませんか」とか。



村上 淳 先輩

村上 公益を認定する民間の公益等認定委員会からの指摘であればいいですが、大阪府が口を出すのはおかしい話です。新公益法人制度でメスを入れたのは、公益的法人、退職金を出したり、私腹をこやしたりする公益法人の冠を被った団体です。そこを正しくしようというのが制度改革でした。我々は本当の公益法人です。会費を払って、給料ももらわず明るい豊かな社会のために日々活動しています。我々は最初から、制度以前から、公益法人なのです。

山本 経済も政治も、破綻・失敗をする時がくる。政治と経済が破綻したときには、人類は文明を失ってしまうのか。そうではないでしょう。最後はもっと単純に人と人の繋がりが、また一から未来を創っていく。その繋がりを創っていくのが、まちづくりに関心がある人を増やすことに戻ってくる。私は、公益という言葉で人に説明するときにこういう話をしています。しかし、内閣府の話の中に、経済と政治には公益という概念が必要だという話が出てきますが、人と人の繋がりが、まちづくりに公益というものが必要だという概念は出てきません。人と人が繋がっていくこと、人が優しさを持ちあうことが本当の公益なのだということを、どうしても日本中に伝えたかった。

村上 目的がはっきりして、周りが熱い人ばかりだったから、苦勞とは感じませんでした。

山本 私たちが行っている、「お金をかけず人を動かすこと」は、本当に難しいことですので、煩わしさは付いて回ります。目的がなければ、煩わしさだけが残ります。

司会 なぜ、私たちは公益社団法人なのか、公益社団法人とは何なのか、一般社団法人の方がいいのではないかと声がかかると、事実だけでなく、なぜそうなのか、「目的」とそれに向けた熱い「想い」を知る必要があるのではないかと、このこととお話をお伺いさせていただきます。

山本 公益になるべきかならないべきか。私はなるべきだという結論になりました。だが、さっきの話とは違う意味で、いまだに正解でも不正解でもないと思つています。現役の皆が、公益が活動するのに足かせだと思つた時に、必ず公益社団法人でいなければならないというしぼりは絶対にはけないと思つています。

村上 JCは現役の皆で考えていくものですから、変えるなら真剣に議論して、一般社団法人に移行するのもありだと思つています。それは皆さんが徹底的に議論して、徹底的に想いをのせて、移行するという選択をするなら、それはそれでいいと思つています。

特別会員

卒業年度	氏名	勤務先
S46	木村俊之	
S47	福岡英治	㈱丸福工務店
S49	河原哲雄	汐見装美㈱
	佐藤庄治	佐藤精機㈱
	増田泰士	師学院グループ
S50	塔下泰昌	
S51	関山守洋	医療法人松柏会 榎坂病院 大阪健康倶楽部
	徳納信行	
	井上暎夫	税理士 井上暎夫事務所
S52	加野元	
	白藤敦美	
	松永義苗	松永金融コンサルタント
S53	瀧川紀征	㈱リパフォール
S54	紙谷繁夫	㈱紙谷工務店
	川畑武寛	ACE厨設㈱
	阪野英夫	
S55	郷上英勲	
S56	川上浩邦	
	橋本憲彦	
	吉田嘉之	吉祥管財㈱
S57	市川盛壽	市川電器
	北村康栄	北村歯科医院
	桑原忠勝	
	小谷澄信	学校法人敬愛学園 社会福祉法人敬愛福祉会 宗教法人 願成寺
	小西洋二	㈱うを七
	田中茂晴	㈱田中工務店
	辻欣司	辻事務所
	中嶋敬	
	中村利男	
	成尾紹雄	寿司割烹・仕出し なるを
	西川文男	西川歯科医院
	灰井正起	灰井司法書士事務所
S58	関山正彦	大阪健康倶楽部
	浜地正男	浜地会計事務所 ㈱システム経営研究所
	樋口正道	ヒグチ時計店
	三村昌平	
	山本洋右	学生服専門店 鈴ヤ
	石原澄雄	エボス㈱
S59	上野和明	前大阪府議会
	花原昭弘	西中島土地(資)
	家村武志	家村商事㈱
S60	九鬼史郎	
	西田泰晤	西田工業㈱
	平栗勲	平栗法律事務所
	堀田稔	㈱堀田工務店
S61	常深嘉一郎	㈱つねみ
	西角修	㈱ジェイ・ビー
S61	松村晴雄	

卒業年度	氏名	勤務先
S62	江藤章人	
	加藤栄治	㈱グリーンスタジオ
	菊池信一郎	㈱ビック
	中村英夫	㈱江坂設備工業
	松本常男	㈱ 魚常
S63	足立善信	足立商事
	東秀夫	東会計事務所
	石橋平三	
	木原一郎	㈱木原オフィス大成代理店
	関健次	関健次税理士事務所
	寺西清	㈱ヤオウメ
	中山安信	サカエ食品㈱
	柳川義行	㈱柳川工務店
H1	井村卓治	㈱井村(井村楽器)
	香川正之	香川矯正歯科医院
H1	川上宇三雄	川上D T O
	小谷章夫	三共機械工業
	小林かほる	
	杉本良一	㈱万両
	吉村敏夫	吉富不動産販売
	渡邊眞	㈱ワタナベ
	渡武志	㈱ワタリ
H2	金子武夫	大信産業㈱
	木村義雄	
	古川哲郎	古川歯科医院
H3	青木亨	㈱日本リスクマネジメント
	大谷昌広	
	西川哲成	大阪歯科大学
	林俊光	
	横田聡	
H4	犬飼和良	医療法人 澄和会 犬飼歯科医院
	兼松茂仁	かねまつ矯正歯科
	高津昇	摂津電気工事㈱
	堀田庄二	㈱堀田工務店
	村上裕康	
	山口篤信	㈱クロード
	山崎睦治	山崎工業㈱
	由上哲生	
H5	青木建雄	医療法人社団建歯会 青木歯科医院
	西川一昌	㈱ユタカプラザ
	橋本治	橋本建設㈱
	平田千足	㈱平田工務店
H6	大枝正人	大枝印刷㈱
	大谷和生	㈱とみや商会
	豊田稔	大阪府議会議員
H7	大前清彦	MARUSAN GROUP ㈱マルサン
	金井弘	㈱本州化学ドライセンター
	金子薫	金子会計事務所
	中江得雄	中江硝子㈱

卒業年度	氏名	勤務先
H7	正岡章	エービーエム㈱
	榎家潤也	
	山本啓方	暁 税理士法人
H8	水川健司	水川歯科医院
	柳田仁志	㈱ネットワーク
	淀井満福	㈱淀井表具店
H9	有田亮一	三恵 ㈱
	石井章雄	サニーストンホテル
	前田健治	
H10	木下吉宏	木下倉庫運輸㈱
	笹井一弘	笹井歯科医院
	疋田陽造	ひきだ歯科医院
	宮脇一彦	泉殿宮
H11	奥谷栄次	アオバ建設工業㈱
	金馬隆仁	日本アールシー㈱
	西本健二	㈱大阪旅行
	橋本豊	橋本設備工業所
H12	池田彰子	㈱オフィス うめじゅん
	磯野耕二	㈱磯野工務店
	木田昌宏	㈱北摂建産
	橋本徹也	㈱橋本測地設計事務所
	札幌治樹	㈱札幌造園
	矢倉昌子	アスカ法律事務所
H13	河崎浩一	㈱河崎ユニフォーム
	河野哲治	コウノオート㈱
	小暮智	ヘイセイ工業㈱
	辻本巖	日幸住建㈱
	富樫弘徳	
	野口享	㈱野口工務店一級建築士事務所
H14	尾形丈夫	
	西本章二	㈱大阪旅行
H15	奥谷正実	吹田市議会議員
	角谷秀明	㈱カクタニ
	西形方良	いすゞオート西形㈱
	山口克也	山口総合政策研究所
	和田哲司	和田歯科医院
H17	加藤綾治	アヴェルエステート㈱
	紙谷幸弘	ランドマーク㈱
	坂本一成	坂本油化㈱
	橋本幸治	㈱豊橋企画
H18	橋本芳信	㈱関根工務店
	山本耕一	㈱ニード
H19	井上雄介	井上会計事務所
	奥谷和子	㈱SAKAE
H20	石川勝	吹田市議会議員
	井上大輔	㈱井上昇商店
	瓜生晴彦	ブルデンシャル生命保険㈱
	岡本岳	岡本・豊永法律事務所
H20	鈴木功二	㈱ニューフロンティア
H21	和泉啓	㈱ ワイズ
	河邊紀博	㈱グリーン空調サービス

卒業生

卒業年度	氏名	勤務先
H21	佐倉 慎一朗	㈱サンヒロ
H22	新井 貴士	新井硝子㈱
	井谷 智子	(有)TMプランニング ㈱イタニバインディング
	瀬川 昇	瀬川昇税理士事務所・ ㈱SEGAWA
	長井 裕司	
	中田 啓介	吹田江の木郵便局
	芳賀 清	芳賀電機㈱
	松本 道夫	日本設備工業㈱
	村上 淳	村上司法書士事務所
	山本 多通男	山本会計事務所
	吉野 克規	㈱吉野建設
H23	石橋 理則	㈱ブルーム
	庄 慶彦	㈱ナショナルデンタルラボラトリー
	瀧川 健一朗	㈱リパフォー
	平田 薫	㈱ミレイ P コンサルティング
H24	西川 滋夫	㈱ 西川
	福室 智久	ゴルフリンクス㈱
H25	那須 良太	那須法律事務所
	西村 明洋	㈱関根工務店
	浜田 泰夫	(有)ミスタータイヤマン江坂
	堀田 誠	㈱堀田工務店
	小谷 秀成	山田敬愛幼稚園
	小谷 正成	岸部・山田敬愛幼稚園 マーヤ・岸部敬愛保育園
	山野 恭司	総合建物管理㈱
H26	櫻田 浩太	㈱ブラサニ
	亀井 義明	メットライフアリアコ生命保険㈱
	清水 良寛	弁護士法人淀屋橋・山上合同
	田中 輝彦	㈱輝栄建設
	田中 敏之	栄電気㈱
H27	小山 博司	緑地スポーツクラブ㈱
	権野 結	てんプロデュース 美華啓治舞踊研究所
	曾我部 晋太	曾我部法律事務所
	藤本 英明	(有)藤本商事
H28	竹若 雅男	㈱ 竹 若
	高木 真一	タカギ酒店
	田中 康介	㈱田中工務店
	玉城 勇介	豊田産業㈱
	濱野 夕希子	㈱経営センター
	西川 智史	西川司法書士事務所
H29	澤田 直己	吹田市議会議員
	馬場 慶次郎	㈱ビームセンス
H30	杉江 友介	大阪府議会議員
	新田 真弓	まゆみ社会保険労務士事務所
	古川 由紀子	建材.com (F・MATERIAL)㈱

卒業年度	氏名
S45	武田 隼一
S46	北川 敏夫
S47	奥村 正道
S49	武田 富男
S50	原田 博明
S51	神前 俊彦
S52	物部 憲明
S53	大久保 紀三
	若松 正身
S54	寺西 重博
	浜口 修二
S55	本多 友豪
S56	川上 峻生
	藤木 祐輔
S57	木下 喜昭
S58	荒井 武敏
	坂田 好穂
	津野 雄司
S59	篤谷 捷重
	道家 臻
	浜野 勝海
S60	門脇 勇
	辻本 勲
	数床 吉信
	由上 勇
S62	小西 芳雄
	佐久間 鉄夫
	高島 常晴
S63	生野 秀昭
	衛藤 恭
H1	柴田 充啓
	處 英治
	西村 力
	吉永 豊二郎
H2	岸 明男
	塚腰 恵美子
H3	浦部 文彦
	八津谷 崇
	山根 伸五
H4	柴田 正
	中尾 智
	藤本 壽久
H5	梅宮 みつこ
	久保 登
	棚原 憲吉
	頭根 学
	中村 文隆
H6	今井 豊
	小野川 勝美

卒業年度	氏名
H6	川上 猶博
	眞島 永次郎
	里内 紀文
	杉本 賢二郎
H7	金築 孝一
	古谷 栄男
H8	尾崎 渡
	曾呂利 晴彦
	土屋 義広
	渡邊 一彦
H9	伊藤 哲夫
	加藤 利治
	清水 康文
	清水 良司
	杉林 繁次郎
	造住 康秀
	武田 裕弘
	西尾 正司
	本浪 剛
H10	新井 性哲
	中山 陽
	深井 喜久
	深田 拓司
	松島 寛忠
	八巻 麻里
	山本 伸二
H11	岡田 倫太郎
	小川 仁
	木田 宗良
	木下 平人
	近藤 光由
	塩山 剛司
	菅生 新
	陳 明裕
	坂東 弘康
	松岡 博文
	山岡 裕幸
H12	天野 成美
	鍛冶田 伸一
	杉本 哲也
	竹中 淳
	富永 邦江
	原田 偉志
H13	紙谷 和典
	岸永 真治
	黒松 裕喜秀
	徳永 親俊
	中田 真市
	羽田 定弘

卒業年度	氏名
H14	木下 幸人
	小崎 章年
	寺村 誠
	中野 聡
	野中 数博
	福岡 健治
H15	杉林 祐次
H16	奥山 幸生
	中野 紀彦
	樋口 明彦
	三木 秀治
H17	片山 賢也
	葛城 範之
	田邊 寛
	坪井 邦允
H19	志智 綾
	西田 剛嗣
	横山 能幸
H20	尾田 一郎
	小西 豊
	辻井 信也
	藤木 栄亮
H21	白石 始
	堀脇 隆広
H22	加藤 一成
	木下 靖雄
H23	小谷 浄和
	藤田 晋一
H24	松本 栄喜
H25	二口 和久
H27	日原 崇
H28	桑原 徹行
	下ノ村 淳
	安岡 大志
	横見 全宣
H29	神谷 宗幣
	児島 伸幸
	酒德里 麻
	豊森 惣一
	松本章 吾
	村上 晃司
	山下 智之
	與那城 利幸
H30	朝陽 偉央
	大野 哲史
	中村 昭一
	舟谷 誠基

メンバー紹介



総務委員会 委員
赤松 優希
赤松優希社会保険労務士事務所



拡大委員会 委員長
足立 将一
㈱パクスジャポニカ



会員交流広報委員会 委員
有澤 由真
吹田市議会議員



拡大委員会 委員
伊藤 一芳
㈱伊藤塗装店



周年事業委員会 委員
上本 博慶
上本司法書士事務所



総務委員会 委員長
大枝 拓人
大枝印刷㈱



理事長
岡田 真里
吹田江坂行政書士事務所



周年事業委員会 委員長
岡本 康
キーワールド江坂



吹田の魅力発信委員会 委員長
小川 利幸
ライフナビパートナーズ㈱



周年事業委員会 副委員長
奥谷 康人
㈱SAKAE



会員交流広報委員会 委員
甲斐 智也
KAI出張洗車サービス



拡大委員会 委員
加藤 康幸
SMBCE日興証券㈱



周年式典委員会 副委員長
喜志田 哲也
NPO法人クラフトスポーツクラブ



吹田の魅力発信委員会 委員
木下 裕貴
㈱あさひコーポレーション



総務委員会 運営幹事
清原 孝裕
健康サロン スクナビコナ



会員交流広報委員会 委員
國分 政樹
近鉄不動産㈱



監事
後藤 恭平
吹田市議会議員
後藤土地家屋調査士事務所



総務委員会 委員
小森 康平
㈱紅葉山葬儀社



会員交流広報委員会 副委員長
坂井 大吾
大阪歯科大学教員(歯科医師)



副理事長兼専務理事
杉本 慎一郎
千里土地㈱



会員交流広報委員会 委員長
関 俊平
㈱セル工芸

メンバー紹介



吹田の魅力発信委員会 副委員長
東川 瞬
ソニー生命保険㈱



拡大委員会 運営幹事
高田 貴士
摂津電気工事㈱



周年事業委員会 運営幹事
徳山 晃久
㈱飛人design



直前理事長
中村 昭一
㈱江坂設備工業



会員交流広報委員会 委員
西川 達哉
㈱fiore



会員交流広報委員会 委員
二田 篤志
nitalabo+partners



会員交流広報委員会 委員
原田 乃梨子
㈱ミラノ工務店



周年式典委員会 委員長
平井 雅俊
吹田市役所



拡大委員会 副委員長
松尾 憲司
㈱グラフィティ



周年事業委員会 委員
松尾 翔太
吹田市議会議員



会員交流広報委員会 運営幹事
松本 暁彦
摂津市議会議員



拡大委員会 委員
松本 佳代
B-RIGHT㈱



副理事長
水江 周平
㈱クール デリュミエール



監事
村上 晃司
村上税理士事務所



副理事長
50周年実行委員長
森 俊弥
moriya



副理事長
柳川 潔敬
㈱柳川工務店



吹田の魅力発信委員会 運営幹事
山口 弘毅
ブルデンシャル生命保険㈱



総務委員会 副委員長
山本 裕之
OYO Hotela Japan(株)



周年式典委員会 運営幹事
渡辺 裕美子
ベリベスト法律事務所

メンバー紹介



50周年実行委員長ご挨拶

公益社団法人吹田青年会議所は1970年、万国博覧会で日本中が熱狂の渦にある中で、箕面青年会議所様のご支援のもと、先輩方の創始の情熱によって全国で436番目の青年会議所として誕生致しました。創立以来、半世紀の永きに渡る先輩諸兄弟のご尽力により、また、市民の皆様、行政、関係諸団体、各地会員会議所の皆様にお支えいただき、50周年を迎えることが出来ましたこと、心より御礼申し上げます。

本年、「for the better ~あと一つ、あと一歩~」をスローガンに掲げ、ことの大小に関わらず、会員一人ひとりが未来のために、更にもう一工夫、もう一つ先へと、当会が今まで積み上げてきた信頼に確かなひとつを積み重ねていくことで、明るい未来を夢見る市民を増やすと共に、自らの手でそれを叶えようとする市民を増やすべく、運動を展開しております。

当会はこれからも時代の変化や潜在しているニーズを絶えず発掘しながら、若者らしくそれらの課題に臆さず挑戦し、吹田の未来のために取り組んでまいります。今後とも、皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。創立50周年の御礼 並びに記念誌発刊の御挨拶とさせていただきます。



50周年実行委員長
森 俊弥



編集後記

創立50周年記念誌を発刊するにあたり、半世紀に渡る諸先輩方の運動の発信を振り返ることで、吹田のまちにおける青年会議所の役割の大きさや、運動の成果を再認識することができました。

1970年に万国博覧会が吹田の地にて開催された青年会議所らしく、自然との調和や文化的教養を重んじる活動、運動はこれからの吹田青年会議所の会員にも強固な価値観として、先輩方の青年経済人としての誇りと共に受け継がれることと確信しております。

この記念誌の役割とは、50年間続けてきた運動を関連付けながら理解し、それらの運動の裏付けとなる諸先輩方の熱い想いを十分に受け取る。そして、ICTの発展によって、将来の予測が難しくなっているこれからの時代にあっても、しなやかな足腰をもって踏ん張り、長期的に必要なとされている課題を見出し、明るい豊かな社会を実現するための行動を起こし続けられる会員の輩出であり、本誌が活動の中で、悩み・迷う時に活動の根っこを振り返るパイプとなることができれば、幸甚の至りでございます。

最後になりましたが、本誌を制作するにあたり、ご協力、ご助言を賜りました各位、諸先輩の皆様にご心より感謝申し上げます。

公益社団法人 吹田青年会議所 創立50周年記念誌 編集担当

有 澤 由 真	伊 藤 一 芳
大 枝 拓 人	小 川 利 幸
喜志田 哲 也	杉 本 慎一郎
関 俊 平	原 田 乃梨子
平 井 雅 俊	水 江 周 平
森 俊 弥	柳 川 潔 敬
渡 辺 裕美子	

デザイン・レイアウト・印刷

大枝印刷株式会社

〒564-0031 大阪府吹田市元町28番7号

TEL. 06-6381-3395

FAX. 06-6318-2000



Junior Chamber International Suita 50th Anniversary

